

る血行不全が主たる原因であるとされています。一旦壊死に陥った骨組織を元に状態にもどす（再生させる）ことは非常に困難とされています。

これまでの「大腿骨頭無腐性壊死」に対する治療法と、その利点および問題点は以下の通りです。

- 1) 海綿骨移植術：壊死となった部位に自分の骨（通常は骨盤の骨）を移植する手術です。最も古くから行われていますが、しばしば移植した骨が生着せず、吸収されてしまうために成績は不良であるとされ、現在では殆ど行われていません。
- 2) 減圧術：血行改善を目的として、壊死部に向けてトンネル状の骨孔を作成する方法です。比較的容易で手術侵襲が小さい点が利点ですが、有効性に関しては一定していません。
- 3) 大腿骨頭回転骨切り術：壊死に陥った部位が陥没変形を来す前に、大腿骨頸部で骨を切って骨頭を回転させ、壊死に陥っていない部位で体重を支えるようにする手術です。壊死病変が比較的小さな場合は有効であることが報告されています。体重負荷が減少することで壊死に陥った部分も骨が再生するとされていますが、長期間を必要とし、その効率も明らかではありません。また支えになる部分が無いほど進行した症例には適応がありません。
- 4) 血管柄付骨移植術：血管を付けたままの自分の骨を移植する手術です。1)と異なり、骨の細胞が生きのまま移植されるため吸収されず、骨の再生には優れた方法です。しかし再生には長い時間がかかり、その間体重をかけないようにしなければならず、壊死範囲が広い場合には、再生されない部位が残ることがあります。
- 5) 人工股関節置換術：変形した骨頭を除去し、股関節を金属とプラスチックを用いた人工関節に作り替える手術です。疼痛を取る効果は優れていますが、脱臼、感染などについて一生注意する必要があるため、将来、磨耗等の理由により、再び手術を受けなければならない可能性があります。

このようにそれぞれ一長一短があり、また病気の進行度（ステージとって、4段階に分類するものが用いられています）によって適切な治療法が変わります。あなたの進行度はステージ3であり、上記の3)あるいは4)の治療法が適応となる状態です。いずれの方法でも壊死骨内では骨再生能力が低いため骨組織再生には長い時間